



山が約1キロの幅で焦げ、火砕流が発生した形跡が確認できたとしている。

一方、気象庁は同日、現地を調査。火口から約

8キロの宮崎県都城市御池町付近で直径約8メートルの噴石を確認した。噴火警戒レベルは入山規制の「3」を継続して、火口から約2キロの範囲で噴石への警戒を呼び掛けている。

宮崎県高原町では火口近くの住民37人が一時自主避難した。同県によると、都城市などで露地野菜や飼料作物などの農地約7千ヘクタールが被災。鹿児島県では曾於、志布志両市で露地栽培のホウレンソウやハクサイが各20ヘクタールほど被害を受けた。

JR九州は日豊線など3路線を断続的に運休した。宮崎と羽田、大阪を結ぶ空の便の一部も欠航。宮崎自動車道の高原―田野インターチェンジ

火砕流と爆発的噴火
火砕流は、高温の火山ガスや溶岩、火山灰が塊として山の斜面を流れ下る現象。流れ出す際に石や砂を巻き込み、時速数百キロの速度に達する。火山内部に蓄積されたエネルギーの噴出などで発生。1991年に起きた長崎県の雲仙・普賢岳の大火

間や宮崎、鹿児島両県内の一般道の一部も通行止めとなった。福岡管区気象台によると、26日深夜から27日未明にかけて、噴火の衝撃

砕流では死者・不明者43人の犠牲が出た。爆発的噴火は①爆発の際に地震計の波形が大きく振幅する②基準を超えた空振が観測点でみられる③などの条件を満たす噴火。多くの噴石を遠方まで飛ばす。桜島では昨年、896回の爆発的噴火を観測している。

波で空気が揺れる「空振」が、福岡県太宰府市や佐賀県武雄市など九州の広範囲で確認された。新燃岳での爆発的噴火は1959年以来という。

気象庁地震火山部火山課は「傾斜計などによる調査では(地盤の)収縮傾向が見られた。いわゆるガス抜きで、一般的に終息の際に見られる傾向だが、新しいマグマが流入して再び膨張することもあるので警戒は必要」としている。